「備後に学ぶ地域の課題」
令和５年度実施報告

共同利用センター　鶴崎 健一

本学では、地域に貢献できる人材を輩出するために、共通教育科目の教養教育科目群として「F 群（地域学)」を設置し、平成 27 年度から「備後に学ぶ地域の課題」という科目を実施している。設置から 9 年目の実施内容について報告する。

令和５年度の実施概要

令和５年度は、福山市市長公室世界バラ会議推進室と経済環境局産業振興課に協力いただき、前半を「世界バラ会議福山大会 2025 に向けたばらのまちづくりについて考える」、後半を「デニム産業の知名度アップ」の２つをテーマの授業を展開した（参考資料 1)。

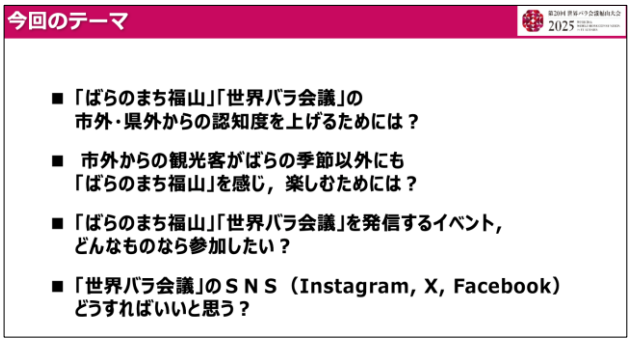

写真１　「ばらのまちづくりについて考える」テーマ

前半は福山市市長公室世界バラ会議推進室の荒木俊亮氏を中心に実施した。1 回目は、この授業のテーマを考える上で必要な知識として、ばらのまち福山の歴史、2025 年に開催される世界バラ会議の目的の説明がなされた。この説明をもとに、「世界に誇れる「ばらのまち福山」の実現のためにはどうすれば良いか。」（写真 1）という問いへの解決策を提示するために、2 回目、3 回目は、4 つのグループ（3～4 名ずつ）に分かれ、適宜、グループのメンバーを入れ替えるワールド・カフェ形式でのディスカッションを行った（写真 2)。4 回目に提案内容についてまとめた（写真 3)。

写真２　ディスカッションの様子

後半は、経済環境局産業振興課の山部大樹氏を中心に、昨年に引き続き「デニム産業の知名度アップ」をテーマに検討した。初回は山部氏に福山のデニム産業の現状について説明をいただいた。2 回目の授業となる 12 月 2 日（土）には、篠原テキスタイル株式会社（デニム工場）を訪問し、社長の篠原由起氏に説明をいただきながら、工場見学を行ない、後半には、受講生と篠原氏の質疑応答が行われた（写真 4）。多くの質問が出され、それに対して篠原氏には丁寧に対応いただいた。

これらの後、福山市から「デニム産業の知名度アップ」に関して、「デニム×観光資源」、「デニム×○○（既存の製品)」、「SNS を用いた情報発信」、「デニム×エンタメ」、「デニム×衣食住（ライフスタイル)」の５つの大きなテーマが与えられた。無作為に構成メンバーを決めた 3 つのグループそれぞれで課題の検討を行い、企画案を作成した（写真 5）。授業最終回での企画案発表の際に出た問題点などをもとに、各グループで深化を図り、今年度も「松永に学ぶ産業と文化」の発表会と合同で 1 月 20 日（土）に福山大学社会連携推進センターで公開成果発表会を実施した（写真 6、写真 7)。

講義終了後に、Cerezo を通じて、レポート課題および授業評価アンケートを行った。

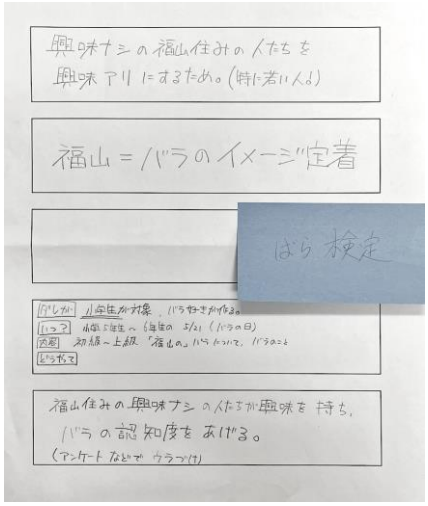

写真３　提案内容の１つ

令和 5 年度の成果・課題について

受講者について

令和 5 年度の受講生は、17 名の履修登録者数であった。昨年、一昨年に比べ半分以下であった。4 月の受講登録の段階では、42 名の登録があり、昨年並みの受講者数となる可能性があったが、今回は、福山市担当課の事情によって、後期授業の当初からの実施ではなく、初回（9 月 27 日）に授業のガイダンスを行った後は、10 月 25 日からの実施となること、12 月 2 日（土）に工場見学を行う予定であること、合同発表会を 1 月 20 日（土）に行う予定であることなどを配信した。初回の授業の出席は当初の登録の半分以下の 22 名であった。その後、最終的には 17 名の登録となり、うち 4 名は 1 度も授業に出席することなく放棄となった。今回の受講者数については、複数教員での対応であり、全受講生を把握することが可能な人数であったが、グループワークを実施する授業展開を行う上で適正な人数より少ない状況であった。また、1 グループを 5 名程度とし比較的ディスカッションしやすい人数とした。全体的には、これまでと比較して活発なディスカッションが行われていたと思うが、グループによっては、特にチーム内で議論の中心となる学生が感染症などで欠席するとディスカッションがうまく進まない場合もあった。特に、1、2 回目の履修初期では受講者の変動もあり、出席が極端に少ないグループが出るなどの問題が生じた。

写真 4　デニム工場見学の様子

成果物の作成・発表について

前半の「世界バラ会議福山大会 2025 に向けたばらのまちづくりについて考える」では、ディスカッションの方法（ワールド・カフェ形式）やディスカッションした内容をまとめる方法を学ぶことを中心としたために、成果物として高い完成度を要求しなかった。昨年と課題や形式が異なったこともあり、比較が難しいが、人数も少なかったこともあり前年度よりもあまり高い完成度ではなかったと思われる。「デニム産業の知名度アップ」については、昨年、一昨年と同様に、具体的な企画案を作るところまでを課題とした。今回は、昨年度までに比べ、受講者数が少なく授業時間中において、チームによっては議論が進みにくくなったり、緊張感が少し欠如したりした部分も見られたが、「松永に学ぶ産業と文化」と公開合同発表会を実施することもあり、昨年同様に 10 回目の授業後に予行演習の時間を設けたことによって、最終的には各チームなりの提案をまとめることができた。ただ、今年度は年末年始の休業期間を挟んだこともあり、完成度としては昨年度よりも全体的に低く、修正を指摘された修正点の改善が不十分となったチームもあった。次年度は、テーマが 1 つとなる予定なので、完成度を高めることも念頭に、授業展開を考えたい。

成果発表「備後に学ぶ地域の課題」（デニム産業の活性化を考える）
- デニム×キャンプ ～丈夫なデニムで楽しくキャンプを～（Aチーム）
- デニム×教材 ～見て、作って、知る デニムの世界～（pieceチーム）
- デニム×エンタメ ～デニム工房～（デニム工房チーム）

写真 5 各チームの発表テーマ

受講生の授業評価

授業評価アンケート（回答 13 名）による本講義の満足度は、概ね良好で（「満足」5 名・「ほぼ満足」5 名・「どちらとも言えない」2 名）あったが、「やや不満」との回答も 1 名あった。「やや不満」と回答した受講生は、体調不良による欠席が数回あり、自由記述による感想にも、「話し合いの時間などが長くて時間が余る時があった。チームは同じ学部同士でないと話し合いがスムーズに行えないと感じた」(参考資料 3) とあり、欠席によってチームに馴染むことができず、また、欠席前の授業の流れを十分に把握できずにディスカッションに臨んでいたことが伺える。

授業の適切性については、「適切であった」が 9 名、「比較的、簡単だった」が 1 名、「比較的、難しかった」が 3 名で、受講生にとって「やや難しかった」という評価となり、昨年度とほぼ同じであった。前半

のテーマが昨年と変わったが、概ね、適切な授業となったものと思う。

アンケートでは、履修した理由についても尋ねている。「科目名を見て決めた」が 2 名、「シラバスを読んで興味を持った」が 3 名、「空き時間を埋めたかった」が 2 名、「単位が取れそうと思った」が 3 名と、かなりのばらつきがあった。そのような中で、「4 年生の先輩が、過去に履修していた科目でもあり、自分も地元について学び、地域の活性化に貢献したいと思ったからです。」と記載した受講生が 1 名いた。この学生は 3 年次生であるが、9 年間で初めて上級生の口コミでの受講であった。今年度は近年では受講生が少ない年度であったが、学生にこの科目が認知されてきていることを感じ、担当者としては嬉しく思う。

受講生の自由記述による感想（参考資料 3）には、これまでと同様、グループワークでの積極性、主体性がいかに重要かを理解できたとの記載があり、本講義の到達目標が達成できたと考えられる。また、「福山に生まれてからずっと住んでいたが福山市がしてる企画や課題などを全然知らなかったので自分が住んでいる地域の問題や発信したいことが少しでも分かり良かったです。」、「もともと自分は地元が広島で尾道ですが、バラのことやデニムのことについて無知でしたが講義を通して知識を増やすことができてよかったです。」、「福山のバラを今後どうやれば広めることが出来るのか、デニムに関しては既存製品をつかってどう広めるのか地元福山についていろいろ考えることが出来た。」といった記述もあり、学生にとって福山の魅力の再発見になったと思われる。一方、「講義を通して先生の判断などでグループワークが得意な人(意見をよく出す、案をまとめるのが上手い)とかをチームに 2 人以上入るようにチーム分けできると良いと思いました。」、「チームを決める時くじはいいが偏ったときまんべんなく散るようにしてほしい。」との記述があった。今回、後半の「デニム産業の活性化を考える」では無作為（くじ）でチームを決定したが、受講生が少なめであることもあり、男女比や学部学科が偏ってしまったので、次回以降は検討し直す必要を感じた。また、「グループ全然知らない人ばかりでどうしていいか分からなかったです。」、「チームは同じ学部同士でないと話し合いがスムーズに行えないと感じた」と

写真 6　発表スライドの一部

写真 7　社会連携推進センターでの発表会

の記載もあった。授業の最初の方において学生同士が打ち解けるためにアイスブレイクを実施するなどしていたが、コミュニケーション能力の向上（参考資料 1）が授業の目的の一つとしてあることをもう少し丁寧に説明する必要があったかもしれない。

令和 5 年度は、篠原テキスタイル株式会社の篠原由起氏のご協力により、令和 2 年以来 3 年ぶりに学外でのフィールドワーク（デニム工場見学）を実施することができた。篠原由起氏には、工場見学の後に 30 分ほどに渡り学生との質疑に応じていただき、大変感謝している。また、福山市市長公室世界バラ会議推進室の荒木俊亮氏、そして、福山市経済環境局産業振興課の山部大樹氏の献身的なご協力に非常に感謝している。令和 6 年度は、今年度とテーマが変わり、福山市文化振興課と協働で「福山の文化財について考える」という 1 つのテーマで実施する予定である。テーマが 1 つとなることで、今年度よりも内容を深めたより充実した授業内容を目指し、受講生の地域貢献の意識を高める一助となるように努力したい。

（参考資料 1）シラバスの概要

講　義　名	備後に学ぶ地域の課題		
開講期・曜日・時限	後期・水曜・５時限 他	単位数	１単位
授業のねらい、概要	備後地域の様々な課題を題材に、学外調査やグループワークなどを行なうことで地域社会への貢献のあり方を考えていきます。 本年度は 2 つのテーマで実施します。 前半は、福山市世界バラ会議推進室の協力で「世界バラ会議福山大会 2025 に向けたばらのまちづくり」について考えます。 後半は、福山市の主要産業であるデニム産業の知名度が低いという課題について、福山市経済環境局経済企画課の協力のもと「デニム産業の知名度アップ」について考えます。 また、これらの成果について、はきもの資料館での公開発表会を予定しています。		
授業（学習）の到達目標	地域を育み、地域に貢献する精神を身に付けることを目指します。グループワークや学外活動を通じて、コミュニケーション能力を身につけることを目指します。		

（参考資料 2）各回の授業内容

授業回	授業内容
第 1 回 9 月 27 日	ガイダンス（本講義の目的・進め方などの説明）
第 2 回 10 月 25 日	世界バラ会議福山大会 2025 に向けたばらのまちづくり 1 ばらのまち福山の現状の説明
第 3 回 11 月 1 日	世界バラ会議福山大会 2025 に向けたばらのまちづくり 2 「ばらのまちづくりへの提言」グループワーク
第 4 回 11 月 8 日	世界バラ会議福山大会 2025 に向けたばらのまちづくり 3 「ばらのまちづくりへの提言」グループワーク・成果物の作成
第 5 回 11 月 22 日	世界バラ会議福山大会 2025 に向けたばらのまちづくり 4 「ばらのまちづくりへの提言」グループワーク・成果発表
第 6 回 11 月 29 日	デニム産業の知名度アップ 1 福山市の産業（特にデニム産業）における現状・課題・福山市の取組について
第 7 回 12 月 2 日	デニム工場（篠原テキスタイル株式会社）見学： デニム工場の現状についての説明・現場の声の収集・グループ内検討
第 8 回 12 月 6 日	デニム産業の知名度アップ 2： 成果物の構想・成果物（企画書）の構想
第 9 回 12 月 13 日	デニム産業の知名度アップ 3： 成果物の構想・成果物（企画書）の作成
第 10 回 12 月 20 日	デニム産業の知名度アップ 4： 成果発表と討論　グループ発表
第 11 回 1 月 20 日	社会連携推進センターでの公開成果発表会：成果発表と討論 ふりかえり・レポート課題説明

（参考資料３）受講生の感想、意見

この講義を履修したことによって、地元について深く知ることができました。自分の地域をもっと大きくしていくために、自分自身に何ができるのかをじっくりと考えました。また、プロジェクトＭとの繋がりを利用して、今回のデニム産業の活性化企画を実現できたらいいなと感じました。また、偶然通りがかった岡山県高校デザイン展に行ったとき、岡山県立倉敷工業高等学校 テキスタイル工学科のデニム生地を用いた服・バッグを見ることができました。自分たちが社会連携センターでの発表会をもとに、また新たな案を発案できるのではないかと思いました。歴代の先輩方の様々なデニム生地を用いた意見や福山市を知らない人であれば、「福山市」を大きく学ぶことができる貴重な講義だと考えております。これからも、たくさんの学生が福山市を盛り上げるために、様々なアイデアが出てくることを期待しています。これからも、たくさんの学生たちに履修してもらい、受け継いでいく必要のある講義だと思いました。
グループワークを通して意見交換できる講義で、良いと思いました。 講義を通して先生の判断などでグループワークが得意な人(意見をよく出す、案をまとめるのが上手い)とかをチームに２人以上入るようにチーム分けできると良いと思いました。
私は、ディスカッションが苦手なので、本科目の講義はすべて私にとって、価値のあるものだったと思います。積極的に活動できない部分や反省点も多くありましたが、付箋に意見を多く書くことで自分の考えをまとめることができたので、今後、ほかの科目においても本科目での反省や学んだことを生かしていきたいと考えました。
チームを決める時くじはいいが偏ったときまんべんなく散るようにしてほしい。他学年、他学部で意見を言ったり制作物を作ったりするのはいい。
もともと自分は地元が広島で尾道ですが、バラのことやデニムのことについて無知でしたが講義を通して知識を増やすことができてよかったです。
前半は、バラの街福山をどのように活性化するのかを考えた。 後半は、実際に篠原テキスタイル様で工場見学して、デニムの性質を自分の目で確認することができた。福山市は、デニムの産地であることを初めて知った。実際に、デニムとキャンプ用品を掛け合わせて、福山がデニムの街であることを認知してもらえるプランを考えることができたと思う。
グループワークなどでは苦労することもありましたが、福山市役所の方から市の観光政策を聞けたことや、特産品であるデニム生地の工場見学など、多くの貴重な体験ができたことには感謝しています。来年度も地域学の講義を受講したいと思いました。
ワールドカフェという方法でグループを作ることは初めてでしたが、自分でメンバーを決めて作業を進めるよりも他の学科の人と交流することができてよかったです。 同じ課題であっても一人一人違う考えがあることを知ることができました。
話し合いの時間などが長くて時間が余る時があった チームは同じ学部同士でないと話し合いがスムーズに行えないと感じた
福山に生まれてからずっと住んでいたが福山市がしている企画や課題などを全然知らなかったので自分が住んでいる地域の問題や発信したいことが少しでも分かり良かったです。 グループ全然知らない人ばかりでどうしていいか分からなかったです。
ありがとうございました。来年度は臨地実習が主になるため、お手伝いができないことご了承ください。今回の授業で疑問に思ったことがあったので、質問させていただきます。 授業中にカメラで録画していたのは今後の授業に活かすためでしょうか。たまに撮られていると感じて緊張してしまいました。このこと以外は特にありません。 私は、福山に住んでいないため福山の魅力を知ることができた貴重な授業でした。ありがとうございました。
福山のバラを今後どうやれば広めることが出来るのか、デニムに関しては既存製品をつかってどう広めるのか地元福山についていろいろ考えることが出来た。
少人数で話し合う機会が何度もあったので、自分の意見を伝えつつ深く聞くことの出来るちょうどいい授業だった。話を聞くだけでなくそこから実際に自分で考えて形にしていくのが面白かったし、こういった授業形態の方が好きだと感じた。